

和  
軒  
日  
抄

地

和

太政官文庫				和 書 門
三	二	三	三	
四	二	三	三	
三	九	五	七	
冊	架	函	號	類

內閣文庫				和 書
五	四	三	三	
函	冊	架	冊	
一	九	一	七	
架	冊	號	類	

共四十三

內閣文庫			
番號	和	32217	
冊數	43 ( 22 )		
函號	150	130	





九八

九九

六一

六十一



清月之山ノ者ノ水ノ清也ノ事ノ成

石ノ双ノ白雲ノ影ノ有ニ投テ其ノ中ノ水ノ清也ノ事ノ成

中門ノ書ノ而ノ不ノ異ノ梳ノ事ノ成

同姓ノ家ノノ名ノ事ノ成

此ノ初ノ定ニ其ノ形ノ移ノ許ノ中ノ書ノ家ノ形ノ以テノ事ノ成

也ノ事ノ成

少ノ高ノ全ノ刻ノ古ノ坂ノ中ノ之ノ事ノ成



六十二

中府凡之留中物事之事

六十三

多田姓名系之書成之事

六十四

若年考名之考合并考之進進物事

六十五

郡中ノ水戸殿取部ノ而後之付進ノ帝ノ三親成事

六十六

初任ノ者孫孫附ノ系能ノ及及成事

六十七

思古ノ及及 所及之 仰有之 後後系ノ及及

六十八

在月代能ノ及及 中及及 系能ノ及及 系能ノ及及

六十九

中及及 方ノ及及 附切ノ及及 成ノ者是也 注ノ及及 及及

七十

振利ノ及及 中及及 中及及 及及 成事

七十一

漢ノ及及 地ノ及及 中及及 及及 成事

七十二

考合及及 成事

七十三

所及及 之及及 及及 及及 及及 及及 及及

七十四

病後及及 及及 及及 及及 及及 及及 及及

七十五

及及 及及 及及 及及 及及 及及 及及

七十六

所及及 之及及 及及 及及 及及 及及 及及

七十七

中及及 及及 及及 及及 及及 及及 及及

七十五

七歳より八歳とて分ちて事

七十六

少子抱方而角上之而母其女也而母其子

七十七

少人同心而後代其任有ゆり有老扱方して事

七十八

浦賀より力同心地所之より一系中上と事

七十九

本朝編令物語一極深極婦人其力と極令致

八十

教し所正所致而致附而附致其子一系中

八十一

長居善信而存其表の所致也事其表也其表

八十二

其表一系

八十一

此國存中病死す身も傍系より其表也而附其表

八十二

万石功中より其降成とて事其表也其表

八十三

少人其表の存事より其表也一系

八十四

表の存事其表の存事其表の存事其表

八十五

其表の存事其表の存事其表の存事其表

八十六

其表の存事其表の存事其表の存事其表

八十七

其表の存事其表の存事其表の存事其表

八六

甲府初書之記此路之外并與及陽橋邊の事

八九

市旗本の家へ事の事ありし事

九十一

陪臣の上様義忠の事ありし事

九十二

出生の初書之記此路の外并與及陽橋邊の事

九十三

可成候の事

九十四

紀伊屋敷の事ありし事

九十五

喜全陣の事ありし事

九十六

紀伊屋敷の事ありし事

九五

水戸之二回席巻の事

九六

八丈嶋の事ありし事

九七

形の事

九八

内府御所名代の事

九九

上様事の事ありし事

一〇〇

聖書物同心の事ありし事

一〇一

姫君様御記の事ありし事

一〇二

方々の事



所見之書上見子希及歟其成在立山紀元初  
所見用和初云云其山紀元初云云其山紀元初用和  
記不之山紀元初  
云云其山紀元初云云其山紀元初云云其山紀元初  
云及山紀元初

宣元月

書面

所見之書者其書皆係長年所見其成難  
之上之山紀元初云云其山紀元初云云其山紀元初  
中紀元初云云其山紀元初云云其山紀元初云云  
所見之書上見子希及歟其成在立山紀元初  
其山紀元初云云其山紀元初云云其山紀元初云云

*[Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page]*

夫中門中書不亦與梳之亦立之事

諸家卷八十

文政之元年七月方中門中書之公

中門中書

中門中書  
亦及於此

此言中門之別中門而與不與也而中門之或與之也并  
 其並組中門中書之公其合與亦與也而中門之用其與也  
 中門之與之也其與也其與也其與也其與也其與也其與也  
 其與也其與也其與也其與也其與也其與也其與也其與也



お渡り申すに合之様申す申通形申すお渡り申す  
魚梳之申す申す申す申す申す申す申す申す  
及申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す  
申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

七月六日

申す申す  
申す申す

書面申す申す申す申す申す申す申す申す申す申す

通形、平禮、各集、九、五、之、等、相、用、山、部、之、之、  
之、山、水、監、出、之、者、魚、之、海、之、所、用、山、部、而、部、  
其、誠、叙、水、細、山、部、山、部、之、是、近、之、是、將、監、之、  
物、志、志、山、部、山、部、之、是、山、部、之、山、部、之、山、部、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、

七月

牧師古史

其、月、中、川、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、

牧師古史

向井將監

其、月、中、川、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、

其、月、中、川、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、  
山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、山、部、之、

為余君此以由定命有元初也全初為之由是亦  
中由乃其來其乃遠其乃其乃其乃其乃其乃其乃  
備之及由書中由上

庚七月

*[Faint red ink bleed-through from the reverse side]*

辛九月性未家一乃其乃其乃

諸守合百四

文政元元年九月廿四日守合元初也其乃其乃其乃  
書而之孰因亦九百形格如律乃其乃其乃其乃其乃  
其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃

筆人正其元

其乃其乃

子才之乃

其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃其乃

留山状

因姓之内の内分又分多を考す

之儀上は 石出山家筋を末家と唱ふ

右同姓末家之分

之儀 所定格を以て其内之儀を以て考す

九月

御川御中  
及石出山家

致す末家書通と色とる

九月廿九日 石出山家筋を以て考す  
其内之儀を以て考す

石出山家筋

子身之内

之儀より所定格を以て考す

留山状

因姓之内の内分又分多を考す

之儀上は 石出山家筋を末家と唱ふ

九月

内庭集人正

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

卒

由和定四郎孫一將市普入那江以之廣  
附于市之末

諸家合下三

又故之皇年十二月十日由和定在乃村位  
十九日九利日人十老久

集人正

由和定四郎孫一將市普入那江以之廣  
附于市之末

由和定四郎孫一將市普入那江以之廣  
附于市之末

右角之由和定四郎孫一將市普入那江以之廣  
附于市之末

内月之由多之形如也如由常年之月係古多由知定  
形如也 作有也如也如由知定形如也作有也如也  
由常今多形如也如也如由知定形如也作有也如也  
在也如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也  
由在也如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也  
如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也  
如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也

定上月

書如之山係十中由知定形如也作有也如也  
如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也  
如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也如也

上月

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a rectangular box containing illegible characters.

空一山の合刻を坂市之字尾着し物申す哉

諸字合百十四

又及是年十月十九日共行兼在松山合刻申す也

刻月ノ子考

八十ノ子考

山の合刻を坂市

右尾包物申す由建出我申合申す

書面尾尾月ノ子考之年申す有し山の合刻を

有...何...何...何...此...山...  
...  
神...  
...

空二...  
...

...

...

...

...

...

...

...

...



三ノ山紀之祖付市山内之留山境知而名  
家山内之山内右言致知及山内

皇十有月

書而山内之留山之方之新戸小  
名木村之方之角管村代之山村  
色角之方之角山内之方之角  
之村之方之留山内之方之留山境

之方之山内之方之山内  
之乃山内

正月

牧野古山

三多田姓在系与表式之事

諸家合十七

文政二年二月十日尾張府所城附分集之町安否表  
此表以方元朝印紙何三三身中史年名居市十中安否表  
是又右抄一何三三身中史年三月十九日集之町引込身  
右身中史年及括抄

尾張府  
所城附

多田姓在系与表式之事

義山半成一事

書面多回姓名宗山義山由諸未及之也  
在宗山之下若々此乃受也乃在正格山宗山  
及接板也

宗山義山宗山乃合行集乃進在也一事

諸山合二十

又政二年四月三日乃合行集乃進在也一事  
乃舟河原乃合乃上乃札乃進及接板

正九月廿二日乃合行集乃進在也一事  
書在乃進

若年乃合乃進在也一事  
乃合乃進在也一事

右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也

右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也

中山

書面之用人左の進進之字又由進上之字也  
之字又由進上之字也

右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也  
右の山を去格に附家日之字に由格進目之字也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

若年参府中合并参府中進出物一筆

諸家合二十六  
文政二年四月廿四日及十次所合

正二月亦方尚書内府中合並之數中内府中取由口也

書取之也

若年参府中是進出物月進出物也其由内府中取由口也

正二月亦方尚書内府中合並之數中内府中取由口也

若年参府中是進出物月進出物也其由内府中取由口也

右中書通判中書進士分封一以中書通判中書通判  
五度初進士一初中書通判中書通判中書通判  
中書進士一任中書通判人任中書進士任中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判

中書

書通判中書進士中書通判中書通判中書通判

中書通判

書通判中書通判中書通判中書通判中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判  
中書通判中書通判中書通判中書通判中書通判

六五 澤中より小三級なる包中書院に在りて常ニ之を修す

諸家各二十四

又此二行年有月也万由知定在乃万官各

大田村名

村極深遠也

坐敷家宅存之也而附之於包中即此田園地也

卯之也

為中より之惣者其田圃修治し而之り月也

席より之惣者其田圃修治し而之り月也

介有

由三家取也。由用修之節。生務之官。并  
同。亦由入都。是之。不可。能也。

宗六。勅。修。之。者。法。修。附。以。多。形。者。也。也。也。

諸。守。令。字。八  
又。改。二。年。有。而。之。也。也。也。也。

年。之。也。也。也。

年。之。也。也。也。

勅。修。之。者。法。修。附。以。多。形。者。也。也。也。  
由。之。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。  
也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。也。



介青

書函之通...

在官舍... 部集... 考之他...

空 思... 月...

諸... 文...

...

...

...

...

...

...

...

此節より先の形は中夜なるに所見の如きも極度  
所見の如し 作有の如き極度なるを生きて中夜に形も  
其の如き極度なるに生きて中夜に形も  
お所の如き何時に生きて中夜に形も  
此形も及所見の如し

正月

書命  
海色は深なる

書命の及所見の如し 仰有の如き中夜に形も

此の如き初の如き中夜に形も  
仰有の如き中夜に形も  
此の如き初の如き中夜に形も

此の如き初の如き中夜に形も  
仰有の如き中夜に形も  
此の如き初の如き中夜に形も

海左出... 子成官合... 付... 方... 何... 中... 元... 合...  
着... 何... 官... 上... 物... 由... 官... 合...  
及... 携... 方... 子... 成... 官... 合... 付... 又... 合...  
為... 官...

月代形... 仕... 仕...

安... 形... 仕... 仕...

文化十三年八月二日... 初... 仕... 中... 史... 院... 方... 四... 形... 中... 在... 其... 官...

但... 而... 收... 所... 更... 分... 四... 年... 同... 工... 常... 所... 仕... 中... 地... 在... 初... 仕... 成...

魏... 官... 原... 係... 中... 仕... 仕...

同... 年... 同... 月... 二... 日... 官... 同... 月... 並... 仕... 形... 用... 青... 系... 格... 同... 係... 成...

本... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...  
亦... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...

亦... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...

亦... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...

亦... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...

亦... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...

亦... 身... 之... 形... 亦... 進... 仕... 形... 同... 二... 日... 官... 亦... 在... 官... 合... 付... 又... 合...

觀年之內

是刻之由信申上卷所付之知書據何事乎中亦知否  
而中亦知事者實係深也之今年月日初之實言也如  
凡因信事者亦何意何少知今午生事亦知何事乎  
出知也深也方中錢事之何信事也如年何事也  
今少知何事目也知事也何事何事也何事何事也  
而信事也何事也何事何事也何事何事也何事何事也

是刻申上卷所付何事也

正月廿九日

宋中書令方士衡地處山者是也江州府及任亮

諸山用及李七

之及三年八月四日收以收新收一五五五五五五五五五

五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五五

五五

西信四印多出  
曲園甲印多日復不

古及任信印書  
曲園甲印多日

內附印

秋山印多日

正修后安麻布程完之  
中居安之内

外拾得后完信

右市之里祖又秋山七郎大妻之方内御是月心御新在喜和  
定保之乃年十月御子御居心御所人信 御子追得及  
本番正事付定改官定年八月之拾四日在御病死信御年  
十月定子御居秋山七郎大父七郎大妻御武信御山出  
内御切信 御子追得及事付定改信御以迄信十月  
尚辰三月病死信御四月定子御居秋山七郎大妻御信御

事付定改信御御新在喜和太事之里安内御切信  
御子二月内上御居方御安之上月御子追得及方御居心御  
御子追得及信御信御信御信御信御信御信御信御信御信御  
御安之乃年十月御子御居心御所人信 御子追得及  
本番正事付定改官定年八月之拾四日在御病死信御年  
十月定子御居秋山七郎大父七郎大妻御武信御山出  
内御切信 御子追得及事付定改信御以迄信十月  
尚辰三月病死信御四月定子御居秋山七郎大妻御信御  
御子二月内上御居方御安之上月御子追得及方御居心御  
御子追得及信御信御信御信御信御信御信御信御信御信御  
御安之乃年十月御子御居心御所人信 御子追得及  
本番正事付定改官定年八月之拾四日在御病死信御年  
十月定子御居秋山七郎大父七郎大妻御武信御山出  
内御切信 御子追得及事付定改信御以迄信十月  
尚辰三月病死信御四月定子御居秋山七郎大妻御信御



可任後我友以好者不我五人今中亦務修之既又  
山經而方私其方和際不常而列例出也其任氏  
既中亦亦以上  
也月  
請事於抄寫

新修書

元化元年十月廿七日  
乃之書而西國最修地理者為十南郊也其書  
聖年二月初日集書一區而附於西國以而中

以謝切  
田安用全就善信  
廿十次印

海防局安  
中名武下町  
七拾二條任免任印

右于抄印系由和定古仍子配由重信信抄初信信信信  
代為和四三三三三月同安代發抄發信付交印為和和  
南之改改下中付抄寫者有為信之常而信之加于抄印  
代發為中功身印中付度為中印通之同地方海印而謝人



之夫に於るの如く地方及びは是の附切の如くは其の如く是の如く  
其在後の如くは其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

亦其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

十有

山中作勝書  
右方内作書

中附札

此書法也其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く  
其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

大惣取

八月十日... 九月十日

九月十日... 阿倍四郎

書面中... 九月十日... 阿倍四郎... 九月十日... 阿倍四郎

書面中... 九月十日... 阿倍四郎... 九月十日... 阿倍四郎

若生身親親所願節之所存也之市之通一代之何年  
所傍地之成也之修其也極以親友之親之親之  
中分也之親也極也極也極也極也極也極也極也極也  
其上也也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
已年私方也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
中分也之親也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
成也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
之也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也

此也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
若書之極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
傍地也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
其上也也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
下也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也  
其上也也極也極也極也極也極也極也極也極也極也極也

五

月

阿倍四郎系

宗九 振判お政の中 西在之 及我之事

諸司官百九

文政三年八月十三日 奉合行兼官各中九之及振判也  
奉合行兼官振一件及ハハ毎判出好之各之為記也

西官合書

奉合行兼官

藏田清守

奉合一和之振判お政の中 西在之 及我之事  
予之及我之ハハ又各振ハ西在の中 西在之及我  
家名花又字ハ大目有之ハ在之ハハ振判ハ西在之官

今山功上

八月廿二日

奉命研案  
藏田清吉

書面振判お改山節申之親方申所及申  
別段兼同取在申在之申及山宗方様文  
江左山節大目付申申在之申之申  
為之申之申

七十溪山為地内申長石河橋形一筆

諸申用五七十一

又此之申年九月廿四日因防山殿新取收之申之申在申之申  
急申之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申  
之申之申之申之申之申之申之申之申之申之申

七方八千何  
此處其後之申

申書面申之申之申之申之申之申之申  
十月廿二日  
飯橋新橋九申

是

之市船子路  
亦多之秋但市水至同山  
既務亦致九月子紀市口者成之

池田至市

在重多中為實今也漢而廢地內亦多之秋四層各亦  
而之何亦仕好在西也者所成層變至市然山亦市同所  
有而長層所居原亦仕變方相形中由下成而為  
而亦多之漢而若危所居原亦仕變方相形中由下成而為  
市船の上

九月

既務亦致九月

因房也殿

漢多之也

亦方八千片  
亦在亦致方 亦

書而中上亦在之信後山分亦為  
仕也

十月十六日

既務亦致九月

書而之市船子亦多之秋但市水至同山  
亦而市口者也 既務亦致九月

漢市屬地内細谷為之信水信其古方之者漢水也  
常流山有岡而市長居強信信水信其古方也  
吾國山如漢市長居信水信其古方也  
初於之中山有漢水信其古方也  
其古方之信山信其古方也  
其古方之信山信其古方也

九月

漢水信其古方

七十一  
吾國之醫師下為之信山信其古方也

諸山用及七十二  
又收三在年九月久志不在集念口合

七十三

同席上狀名也之末口

所自之醫師名也如形山和功後山除寺山和信其古方也

一併同席人數多之信山信其古方也

所自之醫師多之信山信其古方也

受裁、以福、以在、未、以、在、平、系、出、未、之、任、由、信、一  
所、因、之、医、所、之、分、裁、出、状、出、先、出、之、以、指、任、及、且、又  
是、近、迎、各、出、礼、席、之、合、以、如  
所、因、之、医、所、多、く、出、未、任、而、之、混、雜、之、任、由、方、以、指、成  
以、第、二、以、之、出、席、合、入、以、指、任、及、在、以、出、以、指、任、而、之、以、之、  
以、我、之、以、及、中、以、以、上

九月

合合醫師

書由、在、作、字、下、篇、之、字、中、別、由、節

所、因、之、医、所、在、而、未、以、指、任、在、以、以、民、交  
所、因、之、医、所、在、任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、  
任、由、人、數、出、指、任、裁、以、在、以、



在松忠坊... 是又... 亦...  
身... 乃... 亦...  
...

七十一  
海... 珠...  
乃名代... 珠...

諸山... 八十七  
文... 年... 月... 日...  
合... 及...

... 珠... 乃名代...  
... 珠... 乃名代...  
... 珠... 乃名代...

会中上出上

青上

伊東之殿家集  
山本之殿家集

書面御用 乃之節名代 兵部御用  
御目色之御上之書

三所目之御用 兵部御用 乃之節名代 兵部御用

赤中用及分八  
又彼三衣年十月十日 彼所之殿家集 乃之節名代

羽衣在系

諸家御用 兵部御用

御目之書 御用之書 乃之節名代 兵部御用  
乃之節名代 御用之書 乃之節名代 兵部御用  
乃之節名代 御用之書 乃之節名代 兵部御用

御用之旨 任身以故在故身分之慶慶所運所  
為之由故身分之旨之旨助之旨常此後故故了傳  
身分之旨之時以上

十月

羽左左京

少一柳之柳方分分之而推故海之南河之合之化也

七書之役原安之同本影之事

諸由爾及七十

久及二原年九月廿四日進治原收之也

少九札之旨十月十六日由謝札之北之

望口邊上

書面中上之原之旨後山分所知  
十月十六日 任也

由原邊之旨山分之旨八回原之旨

山分七之旨  
山分七之旨  
山分七之旨

右中八父山印于印為以度老衰身形之也而及  
漸更其善後之也 仰身印身于印為強壯及引後  
可中如老年之也山君乃只今也之也而及而為同  
本為仕者有仕友方而完其也而之也中八父所用  
印之列受而物而加也 其或出言而身也而之也仕  
何年矣今也之也而此仕友方而完其也而之也而及  
而友之也而之也而此仕友方而完其也而之也而之也  
而余故年也而之也而此仕友方而完其也而之也而之也

通云 仰身印身于印為強壯及引後

九月十日

四山七三求

分札  
下為形之也而

書而印而色之也而之也而此仕友方而完其也而之也而之也  
老衰身形之也而之也而此仕友方而完其也而之也而之也  
印身印身于印為強壯及引後  
印身印身于印為強壯及引後

同本乃在昔者月仕度与十古能元初以和唱  
道之河与是所小由能比有能之也二以  
函之能与有同及一月得及仕度原十古  
九月  
後宿深市

七及七集と八集との分子と事

諸家合百三十九

文政三年十月廿五日迄分り申合

与在事の事

由官合と定

七集末後と初と有由官合中上七集と八集と

分子節分の日を別派を以て分り申合の事

十月晦日申合の事分り申合の事

十月廿二日

久延前之序

<p>書面之存之節分、不稱日月之方、以爲          此仍別取之、如九時、至、至、至、後          取成也</p>
--------------------------------------------------------------------------

辛六、中子標方、角上、中、止、成、以、馬、取、之、事

中子標方、角上、中、止

久延前之序

中子標方

中子標方、角上、中、止、成、以、馬、取、之、事

中子標方、角上、中、止、成、以、馬、取、之、事

中子標方、角上、中、止、成、以、馬、取、之、事

中子標方、角上、中、止、成、以、馬、取、之、事

十第...  
—

二月

壬子...  
—

諸家春謝...  
—

又...  
—

壬子...  
—

一...  
—

節之在也

月人弟子流之在也

在也

在也

在也

在也

在也

在也

作身也

二月七日

書也





以和和和... 亦因之及... 作...  
以和和和... 亦因之及... 作...  
以和和和... 亦因之及... 作...

亦切... 亦切... 亦切...  
亦切... 亦切... 亦切...  
亦切... 亦切... 亦切...

亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦...

二月廿三日

山崎又...  
山崎又...  
山崎又...

美浦... 美浦... 美浦...  
美浦... 美浦... 美浦...  
美浦... 美浦... 美浦...

諸山...  
諸山...  
諸山...

之... 之... 之...  
之... 之... 之...  
之... 之... 之...

亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦...  
亦... 亦... 亦...

二月廿七日

二月廿七日

山崎又...  
山崎又...  
山崎又...

浦... 浦... 浦...  
浦... 浦... 浦...  
浦... 浦... 浦...

浦... 浦... 浦...  
浦... 浦... 浦...  
浦... 浦... 浦...

有難長之令序之其意方去已年浦野其の山左後  
右之付及此等之其山建の其山建の自序種余其の山  
和長之令其我の極山左後山浦野其の山其我の力  
思地則定之仕委申了之令方之角其極山左後  
於又之令浦野其の山其我の極山左後山浦野其の山  
又之令時方之令其極山左後山浦野其の山其我の力

壬午月

山村忠三郎

諸君之殿 二月十七日申時卯吉辰申ノ時也

比 渡田五右衛門

是

種余其の山種余其の山其我の極山左後山浦野其の山  
其我の極山左後山浦野其の山其我の極山左後山浦野其の山  
其我の極山左後山浦野其の山其我の極山左後山浦野其の山  
其我の極山左後山浦野其の山其我の極山左後山浦野其の山





志用之者以我兼多所及也其祖又居於佳地故志用也  
其中山山三代之山字志用之者故我之能亦在也  
故中之山字何代之山字居於佳地之者其山山也  
志用之者也

書面 所及所及之義是祖居於佳地年數之  
祖居之者其山字何代也其用山字之義即其  
其山祖又居於佳地之者其志用之者其山山也

是山年數之社會也其山字之義是山年數之者  
其山字之義是志用之者其山字之義是山山也  
但祖中其山字之義是山山也

所及所及所及也其山字何代也其山字何代也  
其山字何代也 祖中志用之者其山字何代也  
其山字何代也其山字何代也其山字何代也  
其山字何代也其山字何代也其山字何代也  
其山字何代也其山字何代也其山字何代也

源中兵部右丞用之教諭等事

右中兵部右丞用之教諭等事  
右中兵部右丞用之教諭等事  
右中兵部右丞用之教諭等事

書面右中兵部右丞用之教諭等事  
又書教諭等事

右中兵部右丞用之教諭等事

長官右中兵部右丞用之教諭等事  
右中兵部右丞用之教諭等事

右中兵部右丞用之教諭等事  
右中兵部右丞用之教諭等事  
右中兵部右丞用之教諭等事

力

是道之... 書... 乃... 及... 乃... 乃...

書... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

書... 乃... 乃... 乃...

書... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

月

大久保...



八十改月形中 湯死 身由房年子 敢書 告 山 湯 常 終 子

諸史案合附錄百二八

文政六年三月三日 合好 奏 奏 各 官 官 札 与 及 核 抄

西川合書

為合好奏

猶居心為 高春市房年子 敢 而 月 奏 奏 核 因 防 寺 廢 中 奏  
 市 水 海 是 云 云 中 奏 奏 念 山 和 与 水 海 因 云 月 十 日 以 房  
 痛 死 初 山 子 府 子 敢 言 奏 奏 在 乃 子 以 人 長 子 禮 居 市 十 日  
 市 十 元 廣 与 水 成 大 市 酒 市 与 知 高 人 痛 死 初 山 子 府 子

市十印飛虫性迎而南お初は市十印力既向中五  
形向之形斗少初之々而性以或八形分合中是為向以  
形身抱者世々而消中中上節之形也及去物者世中  
合之之向中而改分合病死既後日亦以 作身以之知  
之者以地者抱者世々而消中中上節之形也及去物者世中  
何事々向人病死後之引之而中向之形也及去物者世中  
元斗の形之抱向中中上節之形也及去物者世中  
お初の中向之形也及去物者世中

二月

分合行矣

書面中表向中消中中上節之形也及去物者世中  
何事々向人病死後之引之而中向之形也及去物者世中

全一万余市石皇降后与中第親治以成之可

諸軍令十二

又後二年十月廿五所始有皇命各市中孔之應聖甲二月  
及攝收

伊勢守皇命

元極海十叶

是

降后与中第親治以成之可

後在石所始有皇命各市中孔之應聖甲二月

一 白名以上之陣屋形、此等處出立、其の形

右等申、其形、此等處出立、其の形

十月

考合

阿部大守

書面陣屋、此等處出立、其の形

陣屋、此等處出立、其の形

此等處

一 白名以上之陣屋、此等處出立、其の形

百名以上之陣屋、此等處出立、其の形

作付、此等處出立、其の形

陣屋、此等處出立、其の形

陣屋、此等處出立、其の形

陣屋、此等處出立、其の形

十二年人... 事

諸家合七

文政七年二月十日... 事

物者... 事

... 事

... 事

... 事

... 事

二月十日

尚書

内閣府中

護符紙書

中書面出以分々紙書並之

全三表の在る表書并兼紙の形紙書等

文政七年二月朔日

日保文部

大倉屋表の在る書所有一等内格分々

内建の在る書所有一等内格分々

為り内建の在る

右内表の在る書所有一等内格分々

五葉時記之書其成爲之而此也  
有之在口答之其有在口答之其有在口答之

書而表之在右其書而之而此也  
其有在口答之其有在口答之其有在口答之  
其有在口答之其有在口答之其有在口答之  
其有在口答之其有在口答之其有在口答之

公 藤中子字集以市之其有在口答之

文政七年甲申四月廿五日

其有在口答之

其有在口答之

五中其書之其有在口答之其有在口答之  
其有在口答之其有在口答之其有在口答之  
其有在口答之其有在口答之其有在口答之

四月

書面五千葉以下と云々  
用此等之類取束可也

半五万石以上の領地ありて其の領地を以て其の領地を以て

文政七年六月紀伊版 所撰附各

紀伊版

所撰附

百石以上居ありて其の領地を以て其の領地を以て

領地ありて其の領地を以て其の領地を以て

領地ありて其の領地を以て其の領地を以て

領地あり



書面万石以上居安之門、附以紙不為未  
之、安中定之、一、山事

六、童名之、九、字、階、長、之、下、之、安、中、成、之、事

文政七年十二月十二日、免、保、原、所、據、附、之、官、令

九、字、安、中、成、之、事

二、童名之、九、字、安、中、成、之、事、階、長、之、下、之、安、中、成、之、事

書面童名九、字、安、中、成、之、事、階、長、之、下、之、安、中、成、之、事  
安、中、成、之、事、階、長、之、下、之、安、中、成、之、事

新山事記

全七  
新山事記

諸家合記  
文政八年二月

新山事記

公儀

新山事記

新山事記

新山事記

二月四日

阿部忠房  
加藤景元

書面市連校之中  
市之家  
松平大守

諸家  
諸家  
諸家

八甲府初番

諸家

文政八年八月十四日

市目

甲府初番

拙者在此  
向市  
嫌亦  
此

臣、山梨山之身於南地之熱田傳、所斗之既、以及  
御所、極處、中、迄、了、能、成、功、事、之、如、願、之、如、以、在、事、及  
以、臣、及、臣、等、合、以、功、上

五月十四日

書、此、山、合、之、熱、田、傳、事、之、如、願、之、如、以、在、事、及  
以、臣、及、臣、等、合、以、功、上

元元所發布、而、事、人、之、之、事、

又、政、八、年、八、月、也、

一、以、臣、及、臣、等、合、以、功、上、

而、自、之、功、上、之、功、上、

所、自、之、功、上、之、功、上、

人、之、之、事、之、事、

月

書面に於て...  
新...  
所見...  
才...

...

九十信長...

...

信長...

書面...  
...

九十一  
包生之御所存不致安胎一女子死去之節  
少産之御所一也

又政八五年十二月廿九日松平任徳寺子傳合

包生之御所存不致安胎一女子死去之節

七死在御所 云々御所

十月

書宛之御所存不致安胎一女子死去之節

九十二 紀伊版分格、撥寄珠附之者、  
存、

諸白合百十六

文政八四年十月紀伊版、所載附分、各九札、及括括

紀伊版  
所載附

紀伊版分格、引松坂、七格、及括、存、付、及、括、

並、種、亦、物、更、存、格、是、並、撥、寄、珠、附、之、存、付、及、

括、也、之、節、撥、寄、珠、附、之、存、付、及、

存、付、及、之、節、存、付、及、之、節、

書面之宛在町定義之...  
方之有也

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

加三書合降等之事

文政九年正月廿六日新井大陽寫家集之旨合

一 表紙書合名海津之表紙書合名海津降等

出火之印信長之旨用之書合之旨用也

書面降等之旨決定之旨用之旨用也

表紙書合之旨用之旨用之旨用也



方々山

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

九曲秋秋并海者之行一漢也

文政九年十月八日

秋秋并海者之行一漢也  
 秋秋并海者之行一漢也  
 秋秋并海者之行一漢也  
 秋秋并海者之行一漢也  
 秋秋并海者之行一漢也

書面之在者備是身之漢也

書に因縁疎くする者は縁者なりとの事  
先述取致す事山を定む所也

書に因縁小當也縁者なり

九五の事之一回希勢形之事

諸市用及十七

文政十三年正月十二日河内國廣野郡新宮郷新宮村  
市原路に在る市原村に因縁の事

但し信長元年正月新宮村に因縁の事

書面上に在る事  
信長

文政十四年

羽生氏系

大業日記

書而中書之... 其... 所目之... 所目之... 所目之...

所目之... 所目之... 所目之... 所目之... 所目之...

所目之... 所目之... 所目之... 所目之... 所目之... 所目之... 所目之... 所目之...

所成是 所員之功上同格而滿其由事乃其氣任而九切之  
之節之者成也 所成之申上

上之而建也存也 所成之申上之者乃其格也  
之氣之者向同格 所成之申上之者乃其格也  
是之者格之氣之者乃其申上之者乃其格也

所員之功上之格也乃其格也乃其格也乃其格也  
者向也 所員之功上之者乃其格也乃其格也  
當時之者用為之乃其格也 所成之申上

所成之申上之者乃其格也

所員之功上之者乃其格也

所成之申上之者乃其格也

所員之功上之者乃其格也

所成之申上之者乃其格也

所員之功上之者乃其格也

所成之申上之者乃其格也

所員之功上之者乃其格也

在為名形、極細極微、後在後、不學、有、日、夜、玩  
評、後、使、少、知、書、通、之、色、中、身、別、日、來、巾、巾、書、畫、戲、也  
在、仕、付、后、十、亦、以、上

育

大業、自、依

河、川、名、殿

四月、二、日、甲、申、卯、卯、立、於、河、川、之、育、上、方、三、日、者、出、所、以、名、也

比、羽、左、左、系、巾、一

書、而、形、極、細、極、微、後、在、後、不、學、有、日、夜、玩

長、山

育、十、者

西、柳、岩、名、系

言、余、在、九、川

山、名、之、一、曰、席、者、也、一、者、  
亦、為、山、書、者

西、山、岩、名、系  
言、余、在、九、川

巾、島、見

在、山、及、之、交

帝、家、院、樣、所、代、教、生、節、也、也、身、亦、止

有、種、院、樣、所、代、教、生、節、之、月、九、日、為、交、也、作、有、之、為、年

正、月、六、日、年、始、陽、札、在、禱、之、多、了、法、出、也、了、一

所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ

所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
上ル  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
此ノ格ニテモ存候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
方回及所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ

所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
方回及所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ  
所因之其下ノ格ヲ心付テ方回年十二月廿七日ニ  
在任後分候ニカ

所并進言を 其の身を多量に保交功上格とす  
所目之以下 所及之以下 所及之以下 所及之以下

権現様 所代之以下 所及之以下 所及之以下  
大願院様 所代之以下 所及之以下 所及之以下  
所代及之以下 所及之以下 所及之以下  
所目之以下 所及之以下 所及之以下  
所及之以下 所及之以下 所及之以下

所代及之以下 所及之以下 所及之以下  
所目之以下 所及之以下 所及之以下  
所及之以下 所及之以下 所及之以下  
所及之以下 所及之以下 所及之以下  
所及之以下 所及之以下 所及之以下

三四月

西解出書  
其書在卷中

此為見

右之字係元申年右市及以 仰付為奉不正月廿五年始  
所札長務之字如包方而備務子

所目之字之務之字如包方而備務子

右任後口分办奉始所札在包中

所代勇 將軍 定中 所目之字在包中

所代勇為初所包中方於所免

所目之字上之在包 仰付中

正月十日所包中 所目之字係所包及奉信

所任生所包所包是又日所包及奉信

有極後樣字係七皇年十二月三日所包及奉信

所包之字所奉之糖血酒包中包方在包係所包及奉信

包任後 所包及奉信

字係在包年十二月廿日

信在院樣和包所包及奉信 包中包 所目之信

同十巳年四月 所之彼信 所官在包月十日包及奉信



長務志 所目之件

寛保三十五年十二月廿九日奉 奉旨 西筋熊代

所成之件 所指不仲奉旨之件 松倉作左衛門尉

所奉之件 熊代及所成之件 所成之件

所成之件 所目之件 上下所成之件 所成之件

所成之件

所成之件 所成之件 所成之件 所成之件

所成之件 所成之件 所成之件 所成之件

和氣守平海 所成之件

上之件 所成之件 所成之件

聖権 所成之件 所成之件

所目之件 所成之件 所成之件

所成之件 所成之件 所成之件

所成之件 所成之件 所成之件

所成之件

所成之件 所成之件 所成之件

水乃裁任也  
右之在也任也

三月

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

諸田用返四十八

文段十五年七月亦公大決陸三印在古八月之在東隱若十印  
在亦市也亦付到 百石回人 在古若

九十六  
改蘇那之事

書通中古色在在海山名在  
亦知也  
八月者

初日常刀

書通山善後任石川宮月之宛青未以助又去其補給

天南八甲年八支考也... 亦有定改之... 亦於彼地  
而死... 亦於... 亦於... 亦於...  
送... 亦於... 亦於... 亦於...  
官... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...

之... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...  
... 亦於... 亦於... 亦於...



所將任 所兼任中後及了所叙之次第是也 所叙之次第  
右身亡又補中印送者尚地善托而中印林寺十以善  
仕及方今物身形也所叙之次第是也

庚六月二日

乙卯辰辰

分札

書而其事中印父補中印送者尚地善托而中印林寺  
右身亡又補中印送者尚地善托而中印林寺十以善  
仕及方今物身形也所叙之次第是也

乙卯辰辰

書而其事中印父補中印送者尚地善托而中印林寺  
右身亡又補中印送者尚地善托而中印林寺十以善  
仕及方今物身形也所叙之次第是也

父結了而用船或渡而射之而船之被者一幸也  
時節若一為度初則一海海也一其為用船之  
為之用而為移之而用海物之移移之而用  
及物移之而用之也一是又若文下移而用之  
之送者若若也其也其也其也其也其也其也其也  
自今在船之也其也其也其也其也其也其也其也  
即之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也  
其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

官命印之也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

一  
七月

臺山在東之射  
海東之官也其  
能也忠也其  
能也伊也其  
也其也其也其也其也其也其也其也其也其也其也

*[Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side]*

内府御 御名代 上  
上後事 之 旨 天 皇 御 前 之 旨 是 也

永正十三年十月二十七日

文政十三年十月二十七日 上後事 之 旨 天 皇 御 前 之 旨 是 也

御名

内府御 御名代 上後事 之 旨

所 在 御 前 之 旨 天 皇 御 前 之 旨 是 也

上後事 之 旨 天 皇 御 前 之 旨 是 也

之 旨 天 皇 御 前 之 旨 是 也





上亦書物同心若為進為病死才中飛龍將筆師  
為治而抱入之委中亦知進之也云格儀或人持持之  
之委中抱入之信名而信札者云云 信後中才今一  
委中抱入成中進為名中云格儀之持持之信云  
將系之物而抱者成中云格儀及名云云上云  
那中書而并中信札者云云云而信云來而中一被信  
初少知進為多祖父若名之云來而不完信之云年  
信而物之代云而抱入云 信對之信後而信信及信

及中抱入成中才今之云云又信儀之云而進為  
委中用信而書物同心云格儀及名云云而信云  
同心云云云而信札者云云 信對之信而信及信  
委中云格儀及名云云而信札者云云 信對之信而信  
信而物之代云云而信札者云云而信書物同心云  
委中而信云云云云而信札者云云而信云云  
云格儀或人持持之云信後而信會仍云信彼是云  
水而信之信而信之信而信之信而信之信而信之

九月十日... 十月... 十一月...  
 十月... 十一月... 十二月...  
 十一月... 十二月... 正月...  
 正月... 二月... 三月...  
 三月... 四月... 五月...  
 五月... 六月... 七月...  
 七月... 八月... 九月...  
 九月... 十月... 十一月...  
 十一月... 十二月... 正月...

九月十日... 十月... 十一月...  
 十月... 十一月... 十二月...  
 十一月... 十二月... 正月...  
 正月... 二月... 三月...  
 三月... 四月... 五月...  
 五月... 六月... 七月...  
 七月... 八月... 九月...  
 九月... 十月... 十一月...  
 十一月... 十二月... 正月...

十月... 十一月... 十二月...  
 十一月... 十二月... 正月...  
 正月... 二月... 三月...  
 三月... 四月... 五月...  
 五月... 六月... 七月...  
 七月... 八月... 九月...  
 九月... 十月... 十一月...  
 十一月... 十二月... 正月...

今度言の拾遺之人持持名是名進部病家可也  
お形持持名之御名は所抱入之御名上之御名也  
儀或人持持名之御名は所抱入之御名上之御名也  
後之御名は尚又及不祀福亦吟味信御名也  
御名は所抱入之御名上之御名也  
尚又及不祀福亦吟味信御名也  
之御名は所抱入之御名上之御名也  
持持名は所抱入之御名上之御名也

儀之御名は所抱入之御名上之御名也

愛<sup>延</sup>保元元年九月伊能<sup>延</sup>殿御名は所抱入之御名也

左之御名は所抱入之御名上之御名也

御名は所抱入之御名上之御名也  
御名は所抱入之御名上之御名也  
御名は所抱入之御名上之御名也

御名は所抱入之御名上之御名也  
御名は所抱入之御名上之御名也  
御名は所抱入之御名上之御名也

一 無事有一物而由之入者無事不增也若何捨儀何  
人捨儀近者捨儀也分入之入者無事不增也  
一 勿勿何何何何何何何何何何何捨儀何人  
捨儀何何何何何何何何何何何何何何何  
一 有之捨儀也何何何何何何何何何何何何何何何  
何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何  
又又何何何何何何何何何何何何何何何何何何何  
何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何

言三捨儀或人捨儀也  
捨儀也人半捨儀也  
何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何

他物何無事也何何何何何何何何何何何何何何何  
入之何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何  
何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何  
何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何

一 中書物何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何  
何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何何

布之類及不祀種之類也

一 今本古書名亦不而古物同之類之類也  
同而持持之同之類也  
之持持之類也  
之類也

一 當時三持持之類也  
之類也

一 古之類也

之三持持之人持持之物也  
持持之類也  
之類也

一 古書同之類也  
之類也  
之類也  
之類也  
之類也  
之類也  
之類也  
之類也  
之類也  
之類也

已也此山後如何也中何如也中何如也  
 答之此山者必令度中亦甚矣其了物也  
 亦此山者務使使之持持也  
 右邊亦有之山者任汝之言是年出爾何  
 山中物何也其感之極也  
 其不其氣初數十年苦也其初中者不其  
 言其感也  
 此山者又必有今一也其何也  
 中何如也

山者

但之年大出書以知其言也  
 中者亦有之山者必有其感也  
 亦此山者必有其感也  
 亦此山者必有其感也  
 亦此山者必有其感也  
 亦此山者必有其感也

之拾遺中是言以布衣以 任後中如中事  
如大之通或下儀一之通事及以中抱者  
如成中上言去此或下儀如中言一之儀如中  
如大如言中每初一之通事及以中抱者  
如中如言及承中如中言中如言中如言中  
當時中如言中言及及中如言中如言中  
如言中如言中言及及中如言中如言中  
如言中如言中言及及中如言中如言中

之持者之言在志將策之物中抱者中  
如言中如言中言及及中如言中如言中

言月

言移如言  
川務如言  
林 友如

言初一初也  
言書如言中如言中如言中  
言書如言中如言中如言中

言之拾遺  
言之人持者

言抱者

言書如言中

言書如言中

言書如言中

進字牌  
長久保嘉康

長久保二十三

右進字牌定改七年十月廿五日  
由堀入申 作符初九日  
九月廿九日  
八月廿九日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日

左進字牌定改七年十月廿五日  
由堀入申 作符初九日  
九月廿九日  
八月廿九日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日  
二月廿五日

進字牌

長久保嘉康



門前影舟  
林石迹

五ノ色ニ拾儀或ハ技抄  
ノ多ク而抄入リテ其抄中

河内書殿 十月廿三日赤糸路ノ色多ク而抄

是

三拾儀或ハ技抄  
拾者儀キテ守抄抄連

中書物在抄内

有ノ色ノ多ク而抄入リテ其抄中

色ノ多ク而抄入リテ其抄中

河内書殿 十月廿三日赤糸路ノ色多ク而抄

中書物在抄内

仁山

十月廿三日

抄入何抄

新之伊知書

書の中書物なるは心言に云三拾儀或人持持拾儀  
去人持持持之云云此中云云乃此中云云乃此中  
云云此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云  
云云此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云  
拾儀之持持持拾儀云云此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃

此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃  
此中云云乃此中云云乃此中云云乃此中云云乃

此所抱者予以 此所抱者予以 此所抱者予以  
此所抱者予以 此所抱者予以 此所抱者予以  
此所抱者予以 此所抱者予以 此所抱者予以  
此所抱者予以 此所抱者予以 此所抱者予以  
此所抱者予以 此所抱者予以 此所抱者予以  
此所抱者予以 此所抱者予以 此所抱者予以

十月

此所抱者予以

此所抱者予以

如

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

此所抱者予以

持持るの抱入の抱下平後の中若くは務儀以て者なり  
抱持るの抱入の抱下平後の中若くは務儀以て者なり  
抱持るの抱入の抱下平後の中若くは務儀以て者なり  
抱持るの抱入の抱下平後の中若くは務儀以て者なり

九劫 張若松の抱持るの抱下平後の中若くは務儀以て者なり  
抱持るの抱入の抱下平後の中若くは務儀以て者なり

諸田用及九十一

又守于亥年十月十日百加聖之殿地月何之来之九十一  
市乃在隆古平中亥年十月十日百加聖之殿地月何之来之九十一

書通中上之色之在隆古平中  
書通中上之色之在隆古平中  
書通中上之色之在隆古平中

羽之乃京

書通中上之色之在隆古平中

唯若柳方由之家并高保山源組と仰る所也  
後由之方於途中由由令中由由令之更及度

種原若柳と於途中由由令中由由令之更  
母原之殿と仰候之種原と於由由令中由由令之更

細考之由由令中由由令中由由令之更

由由令中由由令一夜任其由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

時宜利と致在り之由由令仕由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

其由由令仕由由令細考之由由令之更

十月

羽衣衣衣

九月廿七日... 十月十日... 羽衣衣衣

書... 羽衣衣衣

十月十日... 羽衣衣衣

十月十日... 羽衣衣衣

十月十日... 羽衣衣衣

十月十日... 羽衣衣衣

十月十日... 羽衣衣衣

年十二月

種姫若槻に於て逢申の由合意に申す所相合し  
多事相波波殿に因り上申物所合意相供申す  
我れに及所合意に申す所相合し  
合意相合し相合し相合し相合し相合し  
申す所相合し相合し相合し相合し相合し  
申す所相合し相合し相合し相合し相合し  
申す所相合し相合し相合し相合し相合し  
申す所相合し相合し相合し相合し相合し  
申す所相合し相合し相合し相合し相合し  
申す所相合し相合し相合し相合し相合し

首

去後任徳也  
取 後任徳也  
以未田知重也  
後任徳也  
海舟也

了者之海舟也

海舟也

一後任徳也  
二取 後任徳也

由海舟也

山海經卷之四

崑崙之丘其丘方百里其下有水焉其水曰崑崙之水崑崙之水出崑崙之丘北流注于海崑崙之丘其木多櫟多柞其草多麻

崑崙之丘

- 存 三石如石
- 存 木多如石
- 存 用如石
- 存 石多如石
- 存 石多如石

崑崙之丘其丘方百里其下有水焉其水曰崑崙之水崑崙之水出崑崙之丘北流注于海崑崙之丘其木多櫟多柞其草多麻



前白州河川河川了了  
付方中御書紙三平伏別  
お趣了平方中御書紙中御書紙

百 因食糧之事

諸市用及百六

文及十三年十月十九日

因食糧之事  
と相成る大目付内目付一統  
と在候中坊共全業お成り  
御進節之事お成り  
食糧用の中坊共全業お成り

録之日教相... 大目付  
右... 大目付

諸市用度一百十七

百 諸市用度

百 諸市用度  
諸市用度

諸市用度一百十七  
之...

諸市用度

諸市用度

諸市用度  
諸市用度



百二

此為 正山帝病案之卷之二也初初相成山以  
所及 所及相成山可中我一月

文政三年二月十日 正山帝病案 御成院 官卷

一 此為 正山帝病案之卷之二也初初相成山以

所及相成山可中我一月

又于三月廿九日在正山帝病案之卷之二也初初相成山以

書面此為 正山帝病案之卷之二也初初相成山以

北來山ノ下及 中受水形山委勿備ノ事  
山坊古日教ノ事定年ノ事

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

百三  
海ノ開未ノ尾港殿分持持未殆海ノ事  
ノ事傳子ノ事死別ノ事或ノ事

又改古年四月十二日尾港殿 所城傳ノ事各在於事存換  
抄

尾港殿  
所城傳

海ノ開未ノ事尾港殿持持未殆海ノ事  
中苗地伝伝ノ事ノ事厚取ノ事ノ事傳子ノ事死  
ノ事ノ事不若山或ノ事

書而為之則未之有也  
其書乃在吾人之間  
其書乃在吾人之間

百四 父方母方之伯叔父母之方遠也

文政十二年十月十日

父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也  
父方母方之伯叔父母之方遠也

十月

書苑父冊一足師士信父信母父冊一分殊



Faint, illegible handwritten text in vertical columns, possibly bleed-through from the reverse side of the page.

